

エコパーク通信

エコパーク会長
山本 貴美枝

平成28年10月号

曼珠沙華（赤）
タマズダレ（白）



フジバカマの花に渡り蝶の
アサギマダラが寄ってきます。
この蝶は、はるか南の島
(2000 km) から海を渡り日本に
来ます。すごいですね。



ツククサ



ローゼル



オキザリス

エコパーク（ツククサについて）

齋藤 まつえ

エコパークに行くと植物の種類が多いこと、一年中何かしらの花が咲いています。また花小屋の壁にあるたくさんの花の写真が見事なことに感心します。山本会長御夫妻、会員の皆様に敬意と感謝を捧げます。

昔、道端に咲いていたツリガネニンジン、ヒナギキョウ、ミチヤナギなどが最近見られなくなったのは、やはり除草剤や草刈り機のせいでしょうか。

その中で抜いても放っておくと節から根が出てなかなか枯れない、嫌われ者のツククサを調べてみました。アサガオやキキョウの様な双子葉植物ではなく、ユリなどと同じ単子葉植物で子葉は一枚です。学名は、コンメリナ・コムニスと言い、その名の由来は、オランダの植物学者ヤン・コメリンと甥のカスパー・コメリンをコバルト色の二枚の大きな花弁に例えています。植物学において志半ばで天逝したカスパーの息子を目立たない四枚の花弁になぞらえました。ツククサの萼（つぼみ）は大きな苞（ほう）の中に二個か三個あって次々に咲きます。花は、萼（がく）3枚、花弁3枚、雌しべ1本、そして雄しべ6本です。その雄しべの中で花粉を出すのは長い2本で、残りの鮮やかな黄色の4本の内3本は同じ形で並び、1本は形が少し違い花粉を出さないので假（かり）雄しべと言います。

花は、朝咲いて午後には萎みますが、その時花粉を出す雄しべと雌しべがくるくると丸まり、雄しべの花粉が雌しべに付き、自家受粉され、花は大きな苞（ほう）に戻り種子が実るまで保護されます。

オオボウシバナは、友禅染めの下絵を描く時に用いられる青紙を作るために花弁を使います。青色はアントシアニン系の色素であるので脱色しやすいです。

万葉集ではツククサがいろいろな別名で詠まれております。又、枕草子や源氏物語の中にも出てきます。下記の作品は、ツククサが「移りやすい」という意味で使われています。

万葉集（第10巻）：朝（あした）咲き夕（ゆうべ）は消えぬ 鴨頭草（つきくさ）の消ぬべき恋も
我れはするかも

万葉集・古今集：月草に衣はすらむ 朝露に濡れての後はうつろひぬとも（両集に掲載されている歌です。）

枕草子：月草うつろひやすなるこそうたてあれ

源氏物語：姫君は ましてなお音に聞く 月草の色なる御心なりけり